Bulletin of the Educational Research and Development, Faculty of Education, Kagoshima University
2017, Vol.26, 469-478

報 告

明日をたくましく生き抜く思考力・判断力・表現力を育む図画工作科授業の創造

林　　智　美［鹿児島市立田上小学校］・藤　谷　祐一郎［鹿児島市立田上小学校］
三　浦　和　也［鹿児島市立田上小学校］・下之薗　　崇［鹿児島市立田上小学校］

Creating drawing and crafts lessons for developing abilities of thought, decisiveness, and expression to live healthy and strong in the future

HAYASHI Tomomi・FUJITANI Yuichiro・MIURA Kazuya・SIMONOSONO Takashi

キーワード：思考力・判断力・表現力、協働的、学び合い

１　はじめに

図画工作科では，自分の思いを形に表すことで，自己実現につながり，自分に自信がもてるようになる。また，美しいものを美しいと感じ，いろいろな見方や感じ方を共感したり，生活の中に取り入れたりしていくことで，生活の中に潤いや安らぎをもたらしてくれる。さらに，友達と作品を見合ったり，自国の文化に触れたりする中で，他の文化も認め大切にしようとする気持ちを育むことにもつながる。図画工作科教育を充実させていくことは，未来という明日を生きていく子供たちに，たくましく生き抜く力を育てていくことになると考える。そこで，本校図画工作科では，自分の思いを基に，友達との関わりの中で見方や感じ方を広げ，表現や鑑賞に生かしていく中で，子供たちがたくましく生き抜く思考力・判断力・表現力等の育成を目指すこととした。

２　研究の方向

本研究では，自分の思いを基に見方や感じ方を広げ，表現に生かすことができるようにするために，図画工作科における思考力・判断力・表現力の育成を図ることとした。思考を働かせ，思いを表すための方法を判断し，どのように表現に生かすか考える力を育てることで，一人一人が自分の課題を解決して，主体的に活動することができるようになる。小学校学習指導要領解説図画工作科編でも，「創造することの楽しさを感じるとともに，思考・判断し，表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること，生活の中の造形や美術の働き，美術文化に関心をもって，生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐくむことなどを重視する。」と示されている。そこで，自らの思いを基に，個や集団で見方や感じ方を広げ，表現に生すことができるようにするために，「思考スキル」を活用して，思考力・判断力・表現力を育成する図画工作科の授業に取り組むこととした。

３　「思考スキル」を活用し，思考力・判断力・表現力を育成するための手立て

(1)　図画工作科における「思考スキル」

図画工作科は，子供にとって主体性が発揮しやすいが，一人一人の思考・判断が見えにくい教科である。しかし，広げた思いやイメージが分かるように「見える化」して，作品などのよさや美しさを自分なりの根拠をもって話し合うことができると，子供が自らつまずきや戸惑い等の課

題を解決することができ，自他のよさを交流しやすくなる。また，教師も効果的な言葉掛けを工夫できるようになる。そこで，課題を解決しながら，思考判断し，表現するために必要な手順についての知識や運用方法を身に付けることのできる「思考スキル」を活用することにした。

⑵　図画工作科で重点化した四つの「思考スキル」

「思考スキル」にはいろいろな種類がある。そこで，四つの「思考スキル」を運用することにした。表１は，導入での「思いをもつ・思いをふくらます」段階と，展開での「思いを表現する・自他のよさに気付く」段階で，効果的だった思考スキルを整理したものである（表１）。

表１　四つの思考スキルと効果的な使い方

「比較する」	「関連付ける」
自分の思いを伝えるための工夫を考えるときに活用すると効果的である。 二つのモデル作品を比較することで，思いを伝えるための工夫に気付けるようにした。 そうすることで，自分の思いを生かして，表現方法を選択し，作品製作に主体的に取り組むことにつながった。	自分のイメージを広げて，つくりたいものやかきたいことを発想するときに効果的である。 思いとイメージをつなぎ，思いをふくらませて発想を広げることができるようにした。 そうすることで，感性を働かせながら発想を広げて，そこから表したいことを見つけて，製作活動に意欲的に取り組むことができた。
「多面的に見る」	**「分類する」**
発想・構想の段階で，思いを表現するための工夫を考えるときに活用すると効果的である。 作品を多面的に見ることで，思いを表現するための方法や工夫を見つけ，製作活動に進んで取り組めるようにした。 そうすることで，思いを生かした豊かな表現につながった。	作品の見方や感じ方の視点を増やすときに活用すると効果的である。 作品を見て，気付いたことや感じたことを分類して整理することで，新たな視点に気付くことができるようにした。 そうすることで，見方や感じ方を広げ，自分や友達のよさを認め合うことができた。

⑶　思考の見える化

思いを表現に生かせるように，表現までの過程を「見える化」する手立てを考えた。図１は，思考，判断，表現しながら「思い」を表現に生かす過程を図に表したものである（図１）。子供は，題材や材料に出会い，思いをもち，感性を働かせながら，形や色，イメージなどを基に発想する。そして，表したいことを考えたり，計画を立てたりして，表現へとつなげていく。つまり，発想するときには思考力が働き，発想から構想を練るときには判断力が働いて，発想・構想したことを作品に表す。そのときに，発想・構想したことを整理したり確認したりできるように見える形にしたものを「見える図」と名付けた。

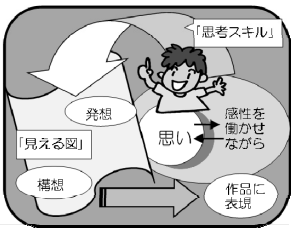


図１
思いを表現に生かす過程

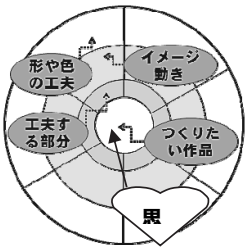


図２　ダーツ図

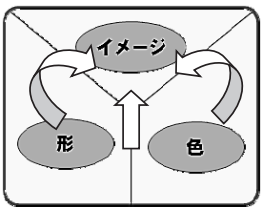


図３　Ｙチャート

ア　表現活動で活用する「見える図」

発想や構想したことを表現につなぐための「見える図」として，本校では，「ダーツ図（図２）」を考案した。図２は，「ダーツ図」の使い方を示している（図２）。始めに，中央の「思い」の部分に，自分の思いを記入して，思いを基にふくらませたことを，言葉や文，アイデアスケッチなどで表す。次に，発想したことを表現に生かす工夫を，色，形などを基に，材料や表現方法を考えてかき入れる。そうすることで，発想したことをどのように工夫すれば思いを表せるかを構想して製作活動に取り組むようになった。

イ　鑑賞活動で活用する「見える図」

鑑賞活動では，視点をもって鑑賞することで，見方や感じ方が広がる。また，作品から感じたことを話し合うことで，表し方の違いや表現の意図を調べることができる。図３は，分類する思考スキルとして関西大学初等部が出した「Ｙチャート」を参考に，図画工作科の三つの視点（色，形，イメージ）を意識しながら調べるようにした「見える図」である（図３）。

⑷　「見える図」の活用

自分の思いからイメージを広げ，表現に生かすことができるように，「見える図」を，ワークシート（図４）等に取り入れた。図４は，「見える図」を入れたワークシートである（図４）。自分の思いを基にイメージをふくらませたり，材料や表現方法を考えたりして，自分の工夫を書いた後，友達との活動を通して共有化・吟味したことや，自分の考えを変化・付加・強固にしたりしたことを，ペンの色を変えて書き加えることにした。そうすることで，自分の思いを基に発想したことや，再構築した考えを表現に生かすことができ，学びの成果を実感することができた。

４　思考力・判断力・表現力を育成する協働的な「学び合い」

⑴　協働的な「学び合い」

子供は，学び合いという相互作用を働かせることによって，自他のよさを認め合い，更に，創造の深化・拡大へとつなぐことができる。図５は，形，色，イメージなどを根拠に伝え合うことで，自分の見方や感じ方が広がることを表している（図５）。友達と協働して伝え合いながら活動したり，つまずきを解決したりすることで，自分の考えていたよりも数多くの見方・感じ方があることに気付くことができる。そして，それらを手掛かりに，自己を改めて見つめ直したり，考えの再構築を図ったりすることができる。そこで，それらの学びを，協働的な「学び合い」として位置付けた。

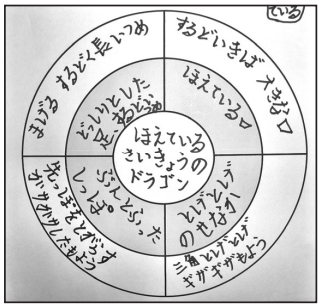


図４　「見える図」ワークシートの例

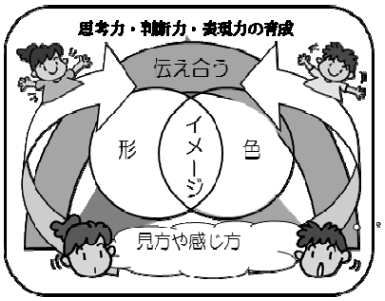


図５　協同的な「学び合い」による
思考力・判断力・表現力の育成

(2)　一人一人が役割をもった，協働的な「学び合い」の充実

思考力・判断力・表現力を育成していくためには，「互いの考えを伝え合い，自らの考えや集団の考えを発展させる学習活動の充実を図ること」が大切であると小学校学習指導要領解説図画工作科編にある。そこで，一人一人が役割をもった協働的な「学び合い」を取り入れることにした。具体的には，話合いを進めるときの役割を本校では，「司会係・進行係・時間係・記録係」など四つの役割分担を行い，一人一人に役割をもたせる「学び合い」を行った。役割をもつことで，子供たちは，自分の活動が明確になり，友達とより協力して取り組むようになる。そして，自分のグループの考えを友達に伝えるために，それぞれの役割で工夫して取り組むようになる。また，相手意識をもって，自分の見方や感じ方を交流し，伝え合う活動を行うことで，自分なりの見方や感じ方も広がり発展した活動となった。

ア　話し手と聞き手を育てる協働的な「学び合い」の例

思考力・判断力・表現力の育成につながる活動にするために，思考・判断，表現した後，自分の考えの再構築が行われるようにした。そこで，話し手役と聞き手役に分かれ，根拠を示して紹介する場をつくった。根拠を示すことで，相手意識をもって伝えたり，目的意識をもって聞いたりすることができた。

具体的には，まず，一人で自分なりの見方や感じ方で鑑賞した後，グループで，それぞれが感じたこと話し合う。そのとき，それぞれが感じた根拠を，お互いに伝えられるように，「見える図」で，形や色，イメージを基に整理する。次に，グループで，話し手（作品の説明をする人）と聞き手の役割に分かれて，それぞれのグループの説明を聞きに行く「アートトークタイム」を行う。話し手は，違うグループのメンバーが来ることで，聞き手に分かるように根拠をしっかり考えるようになる。その際，より伝わりやすくするために，「見える図」等で視覚的に根拠を伝えられるようにした。聞き手は，分かったことを確認したり，疑問に思ったことを質問したりする。そして，聞き手は，自分の考えがより明確になるように，他のグループの説明を聞きに行き，質問する。そうすることで，相手の思いや考えを理解し，新たな見方や感じ方を共有して，自分の考えが新たに再構築されることとなった。

イ　調べる内容や方法を分担する協働的な「学び合い」の例

課題解決に向けて調べる内容や方法の分担を行い，それぞれが調べたことを持ち寄って課題を解決していく調べ活動を行った。例えば，みんなで一枚の絵を鑑賞して感じたことを話し合った後，四人のグループに分かれ，「形」「色」「イメージ」「作者の思い」の四つのことについて調べる係に役割分担する。次に，自分の担当の調べるコーナーに移動する。それぞれのコーナーでは，「形」「色」「イメージ」「作者の思い」に関係あるヒントカードを自由に使って，同じものを調べるメンバーと一緒に話し合いながら考える。最後に，自分の調べたことをグループに持ち帰って紹介する。４人の調べたことを並べて，関係があるところを線でつなぐ。そうすることで「形」「色」「イメージ」「作者の思い」のつながりが分かり，多面的にみることのよさや協働して見ることの面白さを感じ，自分なりの見方や感じ方が広がることにつながった。

(3) 再構築した考えの明確化

協働的な「学び合い」を通して，自分の思いを語ったり友達と共に考えたりすることで，再構築した考えを明確化していくことができる。再構築した考えの明確化で，自分なりの見方や感じ方が広がり，次の活動への新たな思いをもつことができる。そこで，それらを意識できるように，振り返りの活動で，書いたり話したりする活動を位置付けた。そうすることで，自分なりの見方や感じ方が広がり，個の思考力・判断力・表現力を更に高めていくことにつながった。

ア 書くことによる明確化

気付いたことや感じたことを書き加える活動を取り入れることで，考えたことを明確化するようにした。まず，作品から感じたことを書き表した「見える図」に，交流して新しく加わった考えや発見を書き加える。それらは，分かりやすいように違う色で書き加えるようにした。友達と交流して広がった考えが，書くことで再構築され，ふりかえりの際に，見方や感じ方が広がっていることを感じることができた。

イ 話すことによる明確化

話すことで，相手に伝えるという相手意識が生まれ，相手に伝わるように話そうと工夫するようになる。また，友達の考えを聞くことで，今までなかった新しい考えと出合ったり，いろいろな見方や感じ方があることに気付いたりすることができる。そこで，振り返りの段階で，友達の考えを自分の見方や感じ方の中に取り入れることができるように，友達の考えや新しい発見を入れて話すようにした。また，どうしてこうなったのかが分かるように，根拠を示しながら話す体験を行うようにした。そうすることで，子供一人一人が自分の考えを再構築できる体験を意識し，次の振り返りの活動でも生かしていこうとする姿が見られた。

(4) 考えをつなぐ「見つけたいム」の設定

友達の作品の工夫や自分の困っていること等をペアやグループで交流することで，自分の表現したいことを更に工夫して表すことにつながると考え，「見つけたいム」を設定した。表２は，考えのつなぎかたと，言葉の例を表に整理したものである（表２）。また，図６は，「見つけたいム」のときに，言葉をつなぎながら活動できるように，つなぐ言葉をカードに整理したものある（図６）。「見つけたいム」を設定し，子供同士で自ら考えをつなぎ，吟味して，より主体的に活動ができるようにした。

表２　「見付けたいム」考えをつなぐ言葉の例

考えのつなぎ方	子供の言葉の例
評価する	・　○○さんの～がよいと思います。 それは～だからです。
質問する	・　どうやってつくったのですか。 ・　どうして，こんなふうにしたのですか。
関連付ける	・　～ところは，～な感じが伝わってきます。 ・　～な感じにするには，～するとよいですね。
発展させる	・　こんなふうにしたら，よいと思います。 ・　こんなふうにもできると思います。

図６
つなぐ言葉を整理したカード

５　思考力・判断力・表現力を育成する授業の実践

実践題材１　「生き物ねんどランド」（Ａ表現）

(1)　目　標

粘土の特徴を生かして，動きのある形を工夫しながら立体に表す。

(2)　題材の評価規準

○　自分のつくってみたい生き物の動きを考え，粘土でつくることを楽しもうとしている。

【造形への関心・意欲・態度】

○　どんな形で表したら動いている感じが伝わるか想像している。　【発想や構想の能力】

○　粘土の特徴を生かして，形や動きを工夫している。　【創造的な技能】

○　つくった作品を友達と見せ合い，自分や友達の作品のよさを感じている。　【鑑賞の能力】

(3)　指導計画（総時数７時間）

過程	主　な　学　習　活　動　【評価規準】	時間
思いをもつ	１　自分が形にしたいお気に入りの生き物について思いをもつ。 ２　学習のめあてをとらえる。 お気に入りの生き物の動きが伝わるように，ねん土で工夫して表そう。 ３　作品例を見て，つくった友達が伝えたかったお気に入りの生き物の動きや，それが伝わるようにどんな工夫があるか話し合う。 【関：自分のつくってみたい生き物の動きを考え，粘土でつくることを楽しもうとしている。】	0.5
思いをふくらます	４　粘土を試す。（粘土べら，切り糸，どべ） ５　粘土の特徴を考えながら，「見える図」を使って，ふくらませた発想を整理して構想を練る。 【想：どんな形で表したら動いている感じが伝わるか想像したり考えたりしている。】	1
思いを表現する／自他のよさに気付く	６　つくりたい生き物の芯材をつくる。 ７　芯材を粘土でおおい，だいたいの形や動きをつくる。 ８　お気に入りの生き物の様子や動きが伝わるように表現の仕方を工夫する。 ９　表現の途中で互いの作品を見せ合い，自分の表現に生かす。 （ギャラリーウォーク） 【技：粘土の特徴を生かして，自分のつくりたい形や動きが表れるように工夫している。】	5
新たな思いをもつ	10　作品カードを書き，互いの工夫やよさを話し合う。　（ギャラリーウォーク） 【鑑：自分や友達の作品を見せ合いながら，表したかったことについて話し合っている。】	0.5

(4)　実　際

①　教師の手立ての工夫

導入の段階で，二つの作品を比較することで，思いを表すために，工夫があることに気付くことができるようにした。また，自分の作品に生かしたいという意欲をもてるように，実際，粘土に触れたり，道具を使って試したりして材料の特徴を調べることができるようにした。その後，試したことを基に，自分のつくりたい生き物やどのような工夫ができるか考えたことを「見える図」を用いて整理し，構想を練るようにした。製作中は，「見つけたいム」でのギャラリーウォークを行い，意識的に鑑賞の場を設けることで，主体的にいろいろな工夫を探し，自分の作品に生かそうと活動した。その際，新しく加わった考えは，青色で書き込むようにして，自分の考えの変化や再構築された考えのよさに気付くことができるようにした。活動の過程での成長を感じられるように，一つの題材を，導入から終末まで，１枚にまとめて書くことができるワークシートを作成した。その中に，自分の作品のイメージを広げていくために使う「見える図」を入れて，発想や構想の過程での考えを整理できるようにした。

② 本題材の実際

1 作品例を比べて見ることで，思い表すための工夫に気付き，表現への意欲をもつ。

T：二つの作品を比べて，何か気付いたことはありませんか。

右側の作品は，ぐわあって口が開いていて，「食べちゃうぞ。」って感じがします。

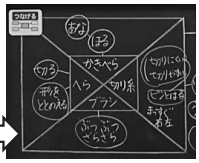
どっちの作品も，どのように表したいか，自分の思いをもっているね。

「ベン図」を使って比べ，気付いたことを話し合い，迫力を出すためには，どちらも自分の思いを工夫して表現している共通点に気付いた。

2 道具を試しながら「見える図」に整理し，作りたいものへのイメージを広げる。

実際に試す活動を通して，材料や道具の特徴を調べて気付いたことをXチャートにメモした。

C１：なるほど。これは使えそうだよ。



調べて気付いたことや感じたことを見える図に整理した。

C１：切り糸を使うと，薄いぺらぺら粘土も作れるよ。
C２：羽根になりそうだね。
C３：羽根のあるドラゴンを作ろうかな。

材料や道具の特徴を基に，自分の作りたいものへのイメージを広げ，アイデア「見える図」に整理した。

3 アイデア「見える図」で，自分の思いを確認しながら，製作活動を行う。

C４：「食べちゃうぞ。」という感じで，口を大きく開こう。口の中の粘土をかき出すのに，かきべらが使えそうだ。

友達の作品を見て，自分の作品に取り入れたい工夫を，青色で，「見える図」に書き込む。

アイデア「見える図」は，製作中，必要な時に確認したり，友達との交流で使ったりする。

ギャラリーウォークで，友達や自分のよさを交流し，思いを伝えるための工夫を調べる。

自分の思いを表現するのに使えそうな工夫を生かす。

C５：○○さんみたいに，ぼくもとげとげを取り入れて強そうな感じを表そう。
C６：ぼくの工夫に，みんな驚いていたね。うれしいな。

4 作品を鑑賞して，自分や友達のよさを味わう。

T ：すべての作品に工夫が隠されています。いろいろな見方で，友達の工夫や作品への思いをさぐってみましょう。

角度を変えた見方
C６：上から見ると，背中のごつごつ感がおもしろいよ。
C７：下から見上げると，力強い感じが伝わってくるよ。
C６：近付いてみると，体に模様があるよ。ストローで付けたのかな。

工夫と思いをつなげた見方
C８：口の開き方がすごいよ。
C９：口の中をよく見ると，舌までちゃんと作っているよ。
C８：かみつこうとしている感じを出したいという思いがあったのではないかな。

見つけた工夫を紹介し合う。

C９：舌や歯まで詳しく作っていて，本当にかみつきそうな感じがしました。
C８：付け加えます。口を大きく開けているので，迫力が伝わってきました。

(5) 考 察

実際に材料や道具に触れ，それらの特徴を感じながら製作への思いをふくらませることで，一人一人が，つくりたいもののイメージを広げることができた。また，それらのイメージを，アイデア「見える図」に整理することで，自分の思いを工夫して表現に生かそうとすることができた。さらに，ギャラリーウォークで友達の工夫を見つける活動の場を設定することで，友達の工夫を自分に取り入れたり困っていることを解決したりして，意欲的に工夫していこうとする姿が見られた。また，自分のよさにも気付き，自信をもって製作活動に取り組む姿が見られた。

実践題材２　「アートカードで見えるんるん」（Ｂ鑑賞）

(1)　目　標

形や色などの感じを基に，自分なりのイメージをもち，作品のいろいろな見方や感じ方を交流しながら，鑑賞の楽しさを味わう。

(2)　単元の目標

○　形や色に興味をもち，自分なりの見方や感じ方で味わおうとしている。【造形への関心・意欲・態度】
○　作品の形や色，イメージなどに関して簡単な言葉にし，よさや面白さを感じ取ろうとしている【鑑賞の能力】

(3)　指導計画（総時数２時間）

過程	主　な　学　習　活　動　【評価規準】	時間
導入	1　今までの作品製作で工夫したことを振り返り，学習のめあてを話し合う。 いろいろな見方を調べて，アートカードゲームで自分なりの見方を楽しも 【関：形や色から感じるイメージに関心をもとうとしている。】	1 本時
展開	2　身近なものから，形や色から感じるイメージについて調べる方法を知る。 【想：身近なものの形や色などの感じを基に，自分なりの見方や考え方をもとうとしている。】	
	3　自分なりの見方や考え方を活用して鑑賞ゲームを行う。 【鑑：作形や色，イメージなどに関して簡単な言葉にし，よさや面白さを感じ取ろうとしている。】	1
終末	4　友達のいろいろな感じ方や見方の違いに気付くようにし，感じ方は自由でありイメージを広げることのよさを感じることができるようにする。 【鑑：お互いが発見したもののよさや面白さを感じ取ろうとしている。】	

(4)　実　際（１／２）

①　教師の手立ての工夫

「思いをふくらます」過程で，まずは，身近なもので試し，気付いたことを出し合い，それをよく見ると，形や色，そこから感じるイメージに分類できることに気付けるようにした。そのとき，自分なりの見方や感じ方をもつための方法を知ることができるように，形や色から感じて発表したことを，言葉（ワードカード）を使って「見える図」に分類したり整理したりして可視化するようにした。その後，「見える図」で考えた見方や感じ方を生かして，作品の特徴を，形や色，イメージを基に，自分なりの見方や感じ方でアートカードを使ったゲームを行い，多様な考えを交流する楽しさを味わうようにした。

②　本時の流れ

１　題材と出合い，鑑賞への思いをもち，本時のめあてを話し合う。

粘土製作のときは，ガブリとかみつく力強い感じのイメージを出すために，大きな口と歯を工夫したよ。

Ｔ：作品をかいたり作ったりするときは，色や形を工夫することで，自分のイメージを表すことができましたね。

Ｔ：「大きく」だったり，「するどく」だったり「どっしり」だったり，それって何を工夫したのでしょう。

今までの作品製作を振り返り，思いからイメージしたことを作品にするために工夫したことを話し合い，本時の学習につなげるようにした。

あ，形だ。形を工夫したよ。絵をかくときは，色の工夫もしたよ。

では，作品を鑑賞するときはどうでしょう。それでは，今日は，作品をもっとよく知って楽しめる見方についてアートカードで学習します。

2　アートカードから自分なりの見方を広げる方法を調べる。

T：このカードの木を見て感じたことや気付いたことを出し合ってみましょう。

・緑色だよ。
・暗い緑だね。
・細いね。
・まっすぐだよ。
・空に揺れる羽根の感じがするよ。

T：みんなから出てきた言葉を見て，気付いたことはないですか。

ワードカード

T：なるほど，では，ここに，線を引くと･･･。三つの仲間に分けられましたね。

あ，「緑」は色の仲間で，「細い」や「まっすぐ」は，形の仲間に分けられます。形，色，イメージの三つに分けられそうだよ。

英語のＹみたいだよ。今度の「見える図」は，Ｙ図だね。

形や色，イメージを調べると作品のことがよく分かりそうだね。

自分なりの見方や感じ方を工夫できるように，形や色から感じて発表したことを，ワードカードを使って貼り，出てきた物を「見える図「Ｙチャート」」で分類して可視化するようにした。

3　「見える図（Ｙチャート）」を使ってアートカードを調べる。

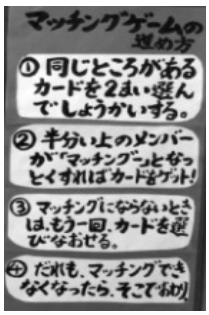
① 掲示作品を見て，形や色，そこから感じるイメージを調べて，「見える図（Ｙチャート）」にあてはめてみんなで話し合う。
② 掲示作品とそれぞれのグループに広げているカードを比べて似ているところがあるカードをグループで話し合って選ぶ。
③ どの視点（形・色・イメージ）でどのカードをえらんだか，みんなに紹介して，黒板に貼る。

T：そうですね。形や色を組み合わせるともっとイメージが広がるね。

T：なるほど。形や色，イメージから，人によっていろんな見方ができて面白いね。

形から同じ作品のカードを見付けたよ。ぼくたちのグループは，この作品を選んだけど，３班は別の作品を選んだよ。その考えもいいね。

4　アートカードを使って「マッチングゲーム」を行う。



マッチングー

いいねえ。確かにそうだね。

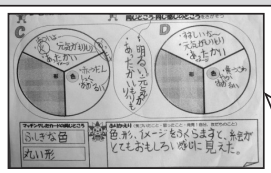
色で選びました。この２枚のカードは，青っぽい感じの色と黄色が光った感じが同じです。

いいところに気付いたね。

「見える図」で考えた見方や感じ方を生かしてアートカードを使ったゲームをし，見方や感じ方を交流する楽しさを味わうようにする。今回はマッチングゲームで伝え合うことを楽しむ中で，自分や友達の見方や考え方のよさを感じ，お互いのよさを認め合う気持ちを大切にした。

5　気付いたことや感じたことを紹介し合ってまとめる。

鑑賞のときは，形や色からイメージを広げることで，作者が伝えたかった思いにも近付けることに気付くことができた。また，自分が表現するときにも，形や色を工夫すると，自分の伝えたいイメージを表現することができることを知り，表現への意欲も高まっていた。



絵をかくときには，色や形を工夫するとイメージが伝えられそうだね。

(5)　考　察

作品の中から見つけた感じを，言葉で「見える図」に分類して可視化することで，形や色の特徴からイメージを広げたり，組み合わせて考えたりすると，もっと作品のことが分かることを発見することができ，作品への興味・関心が高まった。また，「見える図」で，作品が言葉になって表されることで，自分のもったイメージについて具体的に説明したり，友達の見方や感じ方を知ったりして，意欲的に交流する姿が見られた。

６　研究のまとめ

(1)　研究の成果

・　発想や構想の段階で，「コンセプトマップ」や「ダーツ図」等の「見える図」を活用することで，自分の思いを基にイメージをふくらまして，主体的に表現に生かそうとするようになった。

・　表現する際，発想や構想の段階で活用した「見える図」を確認したり，共有化や吟味の際に自分の考えが変化，付加，強固したことを書き加えたりすることで，自分の思いを基にして発想したことを表現に生かしたり，自信をもって主体的に活動に取り組むことができるようになった。

・　製作過程において，友達の作品の工夫や自分の困っていること等を交流する「見つけたいム」を設定することで，自分の思いに合う工夫を見つけようとする姿が見られたり，友達に自分の工夫のよさを認めてもらうことで自信をもって表現する姿が見られたりした。

・　「見つけたいム」を行う際，「つなぐ言葉のおたすけマンカード」を活用することで，友達のよさに理由を付けて伝えたり，作者の思いと形や色，イメージや工夫を関連付けたりしたりしながら，鑑賞する姿が見られるようになった。

・　造形活動の終末で，ギャラリーウォークや番カフェ等の学習方法を活用して鑑賞を行うことで，友達の作品のよさだけでなく，自分の作品のよさに気付くことができ，表現することの楽しさや喜びを味わうことができた。

・　鑑賞活動において協働的な「学び合い」を行うことで，いろいろな見方や感じ方を知り，自分なりの見方や感じ方を広げ，次の活動への新たな思いにつなげることができた。

(2)　研究の課題

・　子供が表現するために必要な製作時間がそれぞれで異なるため，子供一人一人が満足した作品を表現できるように，思いをふくらませ，表現に生かすまでの手立てを更に研究していく必要がある。

・　自分の思いを，多様な表現方法で表すことができるように，自分なりの表現方法を自ら見つけ出し，活用していくことができる手立てを研究していく必要がある。

・　表現することの楽しさや喜びを味わい，高まった意欲を実際の生活にも生かしていくことができるように図画工作科の学習と生活とを関連付けていくための研究を深めていく必要がある。

付記

本報告は，鹿児島大学代用附属鹿児島市立田上小学校平成 26～28 年研究紀要で発表した研究内容等に基づき，その実践と成果をまとめたものである。

〔参考文献〕

○　文部科学省（2008）「小学校学習指導要領解説図画工作科編」．日本文教出版社

○　奥村高明（2010）「子供の絵の見方　子供の世界を鑑賞するまなざし」．東洋館出版社

○　梶浦　真　（2015）「アクティブ・ラーニングの基礎知識」．教育報道出版社

○　関西大学初等部（2012）「関大初等部式　思考力育成法」．さくら社